2009 年度活動報告

2010 年 6 月作成

小児ガン･白血病患者への医療支援活動

（人道支援･医療支援）

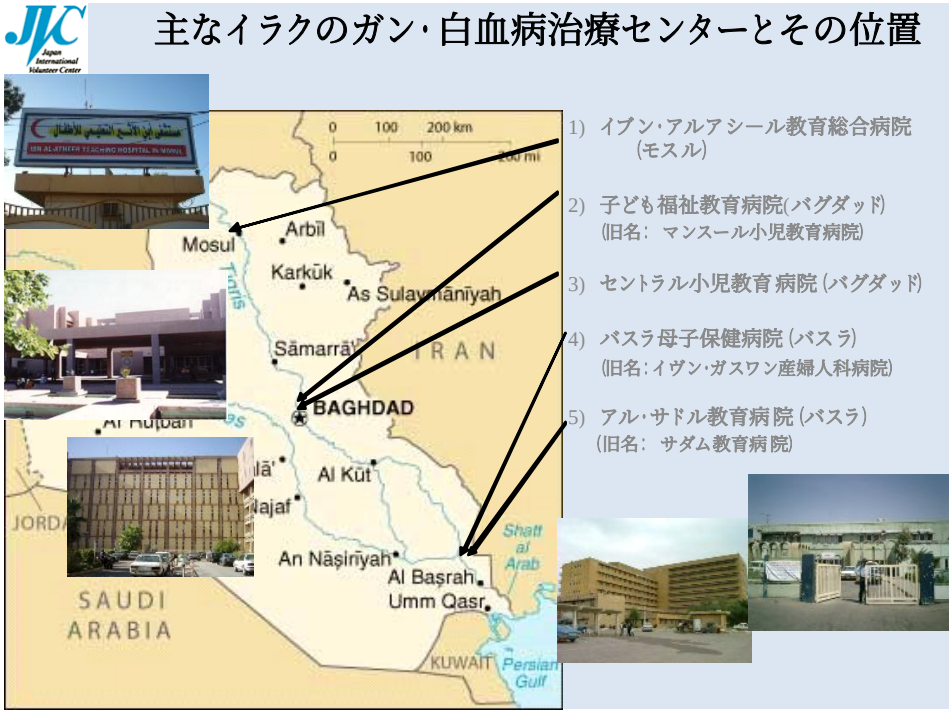
日本国際ボランティアセンター（JVC）
イラク事業担当　原　文次郎

【1】　活動の背景
【2】　2009 年活動報告

【1】　活動の背景と経緯

イラクでは多くの子どもたちが白血病や小児ガンに苦しんでいます。原因として、湾岸戦争やイラク戦争で使われた劣化ウラン弾による放射能汚染との関連が指摘されています。最近では、イラク戦争で激戦地となったバグダッド南部やファッルージャで異常出産の増加が報道されており、これらの原因としても戦争で使われた兵器の影響が懸念されています。

小児ガンや白血病の治療に当たる専門の病院は、現在は、湾岸戦争後の経済制裁による影響や、2003 年の戦争の影響を受けての極度な医薬品や医療機器の不足からは立ち直りつつありますが、イラク政府の保健省および、傘下の医薬品調達・供給を担当する国営企業の機能が不十分で、必要とされる医薬品が必要なタイミングで入手できる体制が整っておらず、外国の NGO による支援を必要とする状況はまだ継続しています。また、診断技術や感染症防止などの医療技術の向上も課題となっています。



JVC は 2003 年よりイラク国内の病院に対する直接支援を手がけて来ましたが、2004 年に日本でイラク支援に関わる他団体や医師などの専門家と協力してネットワーク（JIM-NET：日本イラク医療支援ネットワーク）を立ち上げ、2007 年度以降は小児ガンに対する医療支援はこのネットワークを通して行っています。

【子ども福祉教育病院の病棟のようす（2004 年当時）】

2003 年から 2004 年 4 月までは日本人の担当者がバグダッドに駐在して病院を訪問して支援を行っていましたが、2004 年 4 月以降は現地の治安が厳しくなったため、日本人担当者は常駐せずに、現地のイラク人協力者の助けを得ながら、隣国のヨルダンを拠点に支援を続けています。

【バグダッドの病院に届いた薬品　2005 年】

【2】　2009 年活動報告：

JVC/JIM-NET の活動

JVC は JIM-NET と共同して 2004 年からバクダッド、モスル、バスラで計 4 つの病院で白血病の子どもたちへの医療支援を行っています。主な支援内容は、不足する薬の供給や機材支援になります。2009 年度は、主にイラク北部モスルのイブン・アシール病院と南部のバスラの産科小児科病院（イブン・ガスワン病院）への支援を行いました。

例：　モスル市　イブン・アシール病院への支援

イブン・アシール病院はモスルでがんの治療のできる中核病院です。１４７床の小児病院で内がん病棟は２５床。産科も併設され 50 床を備えています。2007 年以降モスルは武装勢力の活動が活発化し治安悪化は悪化しておりイブン・アシール病院の運営にも支障がでています。2009 年 12 月には教会を狙った爆破事件があるなど、キリスト教徒が攻撃のターゲットになるケースも頻発しています。（モスルのキリスト教人口は 2003 年以降 80 万人から 25 万人まで減少。）2009 年初め JVC とＪＩＭ－ＮＥＴの支援の受け入れをしていた医師は、キリスト教徒であったために、脅され、勤務を続けることが不可能となるという事態も生じましたが、残った医師たちによって現在でも JVC/JIM-NET が提供する薬剤によって白血病の治療は行われています。

【イブン･アシール病院の外観　2009 年】

【小児病棟　2009 年】

2009 年のイブン・アシール病院で新たに治療を受けた小児がん・白血病の患者は９６人。うち亡くなったケースは４２％です。急性リンパ性白血病の患者の５４％、急性骨髄性白血病の患者の８４％、非ホジキンリンパ腫の患者の７１％が死亡しています。感染症の他、患者が途中で治療を中断することなどが主な原因です。新来患者以外の継続治療のケースは比較的治癒率が良好です。白血病の治療は、１０種類以上の抗がん剤、抗生剤を取り混ぜて使用します。２－３年の間、何回も抗がん剤投与を繰り返す必要があるため、抗がん剤の供給が途絶え、投与が中断すれば患者の治療に大きな支障をもたらします。このため、医薬品の不足により治療の中断を招かないためにも継続的な支援が必要とされるのです。

同病院への JVC/JIM-NET による 2009 年度支援額は、2010 年 2 月時点で合計約 5 万 5 千ドル相当になります。

以上